§真世界[True Worlds]
　無限に広がる混沌（カオス）の海に、以下の次元世界が島のように存在している。

　１）具象界[Camouflage World]
　　人間達が住む世界。人間でない者達からは『偽装世界』とも呼ばれる。

　２）魔界[Chaos Sphere]
　　魔神（デーモン）やその眷属が住む世界。

　３）冥界[Cyclic Order]
　　死者と魂の世界。死神が属する世界でもある。

　４）妖精界[Hidden Crevice]
　　様々な異世界や次元の隙間に存在する、妖精の住む世界。

§具象界[Camouflage World]
　他の様々な異界のほぼ中央に位置すると言われている次元が、『具象界』（ぐしょうかい）と呼ばれる。この世界には地球があり、人間達が住んでいる世界だが、本当はそうではない。
　具象界自体は、他の異世界が放射するエネルギーの流れが合わさって、偶然生まれた河の合流地点のようなものである。様々な異世界との接点が、具象界のあちこちに隠されている。
　次元を移動できる能力を持つ異世界の住人達は、この具象界を様々な手段で利用している。

　人間の住む世界は、実は巧妙に偽装された世界である。この世界は実は人間のものではない。人ならざるもの達がその存在を隠していくために、人間社会という名の『偽装世界』が構築されている。そのことに気付いた一部の人間は、それに対して他の異世界を含むこの世界を『真世界』（しんせかい）と呼ぶこともある。

〇具象界と神話／伝説／伝承
　具象界に存在する神話／伝説／伝承は、魔界／冥界／妖精界との接触が、歪んだ、もしくは改変・捏造された形で伝わっているものがほとんどである。文明が成熟しておらず、知識の伝達が不完全な古代の具象界の人間からすると、魔界／冥界／妖精界の存在は神にも匹敵する。それゆえに神として（後に悪魔として）祭られたものも少なくない。

〇具象界と異界との接点

１）魔界との接点
　魔界の住人である魔神の中には、次元の壁を越えて移動できる能力を持つ個体が多数存在する。そのため、魔神たちは様々な理由で頻繁に具象界を訪れていた。その時期が具象界では古代にあたり、それらの出来事が神話の形成に繋がっている。
　当初、魔神が一方的に具象界を訪れるだけだった。その内、魔神と交流があった人間の中に、魔神を召喚する技術を編み出すものが現れる。これは魔神の協力があったからこそ実現できたことだが、その技術は様々な形で伝播され、神降ろし／悪魔召喚へと変化してくことになる。

２）冥界との接点
　お盆など、死者が帰還する概念を持つ行事は具象界の各地にある。これは冥界への流れからはみ出してしまったもの（ゴースト／ファントム、ライフレス／ゾンビ、死神）の存在によるものである。
　死んだはずのものが現れる（もしくは目撃する）という現象が、祖霊への畏怖と鎮魂につながり、冥福を祈るという流れを生み出したのである

３）妖精界との接点
　太古の時代、自然の豊かな場所には、妖精界に繋がる”道”がいくつもあった。しかし、人間による自然破壊でその数が減少。加えて人間による妖精への干渉（攻撃など）により、妖精界に繋がる道のほとんどが閉ざされてしまった。現存する数少ないその道は、限られた者（＝妖精）だけが行き来できるように巧妙に隠されている。

〇異能者
　超能力や魔術的な特殊能力を持つものを総称して”異能者”と呼ぶ。人間が異能力を手にしたのは、多かれ少なかれ、具象界以外の他の異界の影響がある。異界へ迷いこんだり、異界の住人と接触することで、人間の中に異能力を持つものたちが現れ始めた。
　人間が氾濫する地球では、人口の増加に伴い、このような異能者も増加していく傾向がある。最終的に増えすぎた異能者たちは社会に影響を及ぼすことが予想されるが、これが実現しない理由が『偽装世界』である。人外の存在である異界の住人たちは、自分達が利用している具象界が混乱し、利用価値が低下することを危惧している。そのため、干渉と偽装が行われ、具象界は（人間から見て）一見して平和に保たれている。